

<略語表>

JICA	Japan International Cooperation Agency (国際協力事業団)
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers (青年海外協力隊)
JSV	Japan Silver Volunteers (日本シルバーボランティアズ)
NGO	Non-governmental Organization (非政府機関)
NIE	National Institute of Education (スリ・ランカ国立教育研修・研究所)
ODA	Official Development Assistance (政府開発援助)
UNDP	United Nations Development Program (国際連合開発計画)
UNESCO	United Nations Education, Scientific and Cultural Organization (ユネスコ：国際連合教育科学文化機関)
UNICEF	United Nations Children's Fund (ユニセフ：国際連合児童基金)
WHO	World Health Organization (世界保健機構)

<図一覧>

序論

第2章

Fig. 2-1-1 研究の構成

第3章

Fig. 3-2-1 わが国のODAの分類

Fig. 3-2-1 開発と教育・分野別援助研究会による教育援助の定義

Fig. 3-2-2 教育援助分野の分類

Fig. 3-4-1 本研究における障害児教育への援助の定義

第4章

Fig. 4-2-1 被検児の聴力レベルの分布

Fig. 4-2-2 補聴器の装用時間

第5章

Fig. 5-1-1 障害児早期教育の理論的根拠（アメリカ）

Fig. 5-1-2 早期教育のもたらす利益

Fig. 5-1-3 早期教育プログラムの支柱となる包括的概念：7つのモデル

Fig. 5-1-4 早期教育プログラムの構成要素

Fig. 5-1-5 早期教育プログラムにおけるサービス提供の形態

Fig. 5-1-6 早期教育実践の質を示す指針

Fig. 5-2-1 わが国における聴覚障害児早期教育の理論的根拠

Fig. 5-2-2 わが国の聴覚障害早期教育施設におけるサービス提供の形態

Fig. 5-2-3 わが国における聴覚障害児早期教育プログラムの指導内容

Fig. 5-2-4 母親法の概念モデル（「母と子の教室」）

Fig. 5-2-5 聞こえのことばの学習構造モデル（「母と子の教室」）

Fig. 5-3-1 発展途上国における障害児早期教育の基盤

Fig. 5-3-2 発展途上国における障害児早期教育のサービス提供の形態

Fig. 5-3-3 発展途上国における障害児早期教育実践上の留意点（Price, 1994）

本論

第6章

- Fig. 6—2—1 スリ・ランカ障害児教育行政組織図
- Fig. 6—3—1 スリ・スタルン盲・聾学校における小学部1年の子どもの年齢構成

第7章

- Fig. 7—1—1 スリ・ランカでの援助案件形成過程（セートウンガ, 1995）
- Fig. 7—3—1 障害別の入園年齢の分布（聴覚障害）
- Fig. 7—3—2 障害別の入園年齢の分布（知的障害）
- Fig. 7—3—3 過去の在籍児の退園の理由

第8章

- Fig. 8—2—1 両群の年齢構成
- Fig. 8—2—2 平均聴力レベルの分布（早期教育群）
- Fig. 8—2—3 平均聴力レベルの分布（非早期教育群）
- Fig. 8—2—4 最後に受けた聴力検査の時期
- Fig. 8—3—1 両群の得点構成（単語の読話）
- Fig. 8—3—2 両群の得点構成（単文の読話）
- Fig. 8—3—3 各被検児の話ことばの段階別分布
- Fig. 8—3—4 父親の職業分布
- Fig. 8—3—5 母親の職業分布
- Fig. 8—3—6 父親の教育レベルの分布
- Fig. 8—3—7 母親の教育レベルの分布
- Fig. 8—3—8 家庭の収入（月収）
- Fig. 8—3—9 家庭における照明の方法（早期教育群）
- Fig. 8—3—10 家庭における照明の方法（非早期教育群）
- Fig. 8—3—11 家庭における給水方法（早期教育群）
- Fig. 8—3—12 家庭における給水方法（非早期教育群）
- Fig. 8—3—13 周囲の人々が障害に気づいた年齢
- Fig. 8—3—14 補聴器を手に入れた年齢

第9章

- Fig. 9—1—1 わが国が障害児教育への援助を実施する上での基盤となる事柄
- Fig. 9—2—1 スリ・ランカにおける聴覚障害児早期教育モデル

結論

補章

Fig. 補—3—1 社会福祉省組織図

<表一覧>

序論

第2章

Table 2—1—1 本研究の方法と対応する章

Table 2—2—1 本研究で実施する調査研究

第3章

Table 3—3—1 発達障害児教育分野における国際交流の3段階

Table 3—3—2 障害児教育分野の国際協力のモデル

第4章

Table 4—2—1 アヌラダプラ県での障害児に関する学校調査の結果

Table 4—2—2 スリ・ランカの盲学校在籍児の視覚障害の原因

Table 4—2—3 人口10万人当たりの聾及び聾啞者の年齢別・性別人数

Table 4—2—4 キャンデイ国立総合病院においてみられた聴覚障害の原因

Table 4—2—5 キャンデイ国立総合病院においてみられた耳疾患の症例数

Table 4—2—6 補聴器を使用しない理由

Table 4—2—7 イヤモールドを使用しない理由

Table 4—2—8 補聴器に関する諸問題

第5章

Table 5—2—1 全国聾学校幼稚部設置の年度別増加推移（井原, 1974）

本論

第6章

Table 6—1—2 スリ・ランカの障害児教育の発展と援助に関する年表

Table 6—1—2 ラトマラーナ盲・聾学校における在籍生徒数（聾部門のみ）

Table 6—2—1	各州における障害児ユニット数及び特殊学校数
Table 6—2—2	各州の障害児教育担当数
Table 6—2—3	各州の障害児ユニット及び特殊学校在籍児数
Table 6—3—1	過去20年の聾学校及び聴覚障害ユニット在籍児数
Table 6—3—2	訪問した聴覚障害ユニットの概要(1997年7月)
Table 6—3—3	各聴覚障害ユニットの教員の実態
Table 6—3—4	在籍する子どもの概要
Table 6—3—5	各ユニットの教室環境
Table 6—3—6	各ユニットの機器の設置及び使用状況
Table 6—3—7	訪問した聾学校(1997年)
Table 6—3—8	スリ・ランカの盲・聾学校の名称及び教師・生徒数(1996)
Table 6—3—9	過去5年の教員訓練学校への入学者数
Table 6—3—10	各聾学校における政府認可教員及び教員訓練学校修了者の人数及び割合
Table 6—4—1	NIE特殊教育部がSIDAの援助で実施した業務の内容

第7章

Table 7—1—1	スリ・ランカに対する教育援助案件の決定・実施プロセスの各段階とその問題点
Table 7—1—2	スリ・ランカの障害者支援分野に対するわが国の援助年表
Table 7—2—1	「聾学校幼稚部プロジェクト」の援助内容
Table 7—2—2	面談者リスト
Table 7—2—3	教員訓練学校聴覚障害児教育教員養成コース参加人数
Table 7—2—4	スリ・ランカ「聾学校幼稚部プロジェクト」援助年表
Table 7—2—5	援助プロジェクトの受け入れられ方の類型とその影響
Table 7—2—6	幼稚部に通園した子どもの母親3名に対する構造面接の項目
Table 7—2—7	幼稚部に通園した子どもの母親3名から得られた回答
Table 7—2—8	プロジェクトに対する教員のコメント
Table 7—2—9	聾学校幼稚部プロジェクトで開設された幼稚部等の10年後の現状
Table 7—3—1	「聴覚障害プレスクール・プロジェクト」の援助内容
Table 7—3—2	スリ・ランカにおける障害児早期教育施設の分類
Table 7—3—3	子どもの障害のタイプ別分布(人数)
Table 7—3—4	在籍幼児の入園児の年齢(障害別)
Table 7—3—5	聴覚障害児プレスクール

第8章

- Table 8—2—1 被検児のプロフィール
- Table 8—2—2 早期教育施設に通った年数
- Table 8—2—3 被検児の居住地
- Table 8—2—4 読話テストに用いた単語と単文
- Table 8—2—5 学力テスト (Grade1)
- Table 8—2—6 自発表現の評価表
(List of items for assessment of expressions of the child)
- Table 8—3—1 各課題の結果
- Table 8—3—2 各群におけるGrade1遂行児童数
- Table 8—3—3 表出レベルに関する評定値の分布
- Table 8—3—4 スピーチの量に関する評定値の分布
- Table 8—3—5 話の内容の評価基準
- Table 8—3—6 異なり語彙・共通使用語彙
- Table 8—3—7 異なり語彙の品詞別分類
- Table 8—3—8 最初に子どもの障害に気づいた人
- Table 8—3—9 回答者が答えた子どもの聴覚障害の原因
- Table 8—3—10 最初に補聴器を入手した場所
- Table 8—3—11 学校選択に重要な役割を果たした人
- Table 8—3—12 子どもが現在の学校に入学するために尽力した人
- Table 8—3—13 困ったときに相談する相手
- Table 8—3—14 子どもとのコミュニケーション・モード
- Table 8—3—15 異なり語彙・共通使用語彙 (日本語訳)
- Table 8—4—1 学力テストにおいてGrade 1を遂行できなかった子どもの年齢

第9章

- Table 9—1—1 スウェーデンとわが国の障害児教育のソフト面における援助
- Table 9—1—2 「聾学校幼稚部プロジェクト」の効果

結論

補章

- Table 補—2—1 スリ・ランカの学校教育年表
- Table 補—2—1 就学前教育の運営団体

<資料一覧>

序論

第2章

Appendix 2—1 関係機関への依頼状

本論

第7章

Appendix 7—3—1 a 障害児プレスクールに対する調査用紙（1）

Appendix 7—3—1 b 障害児プレスクールに対する調査用紙（2）

Appendix 7—3—1 c 調査用紙に同封した依頼状

Appendix 7—3—2 聴覚障害プレスクール教員養成コース受講者に対する質問紙
（英語）

第8章

Appendix 8—2—1 A園の校長による紹介及び依頼状

Appendix 8—2—2 NIEによる聴力等の検査への参加依頼状

Appendix 8—2—3 読話カテスト（1）単語（50%縮小版）

Appendix 8—2—4 読話カテスト（2）単語（50%縮小版：原版カラー）

Appendix 8—2—5 読話カテスト（3）単文（50%縮小版）

Appendix 8—2—6 読話カテスト（4）単文（50%縮小版：原版カラー）

Appendix 8—2—7 学カテスト Grade1の問題

Appendix 8—2—8 提示した絵「家の中での家族のようす」（50%縮小版）

Appendix 8—2—9 提示した絵「学校でのおやつ時間」（50%縮小版）

Appendix 8—2—10 構造面接で用いた質問項目

結論

補章

Appendix 補—1—1 スリ・ランカの行政区分地図

Appendix 補—2—1 スリ・ランカにおける学校教育制度（セドゥンガ, 1997）